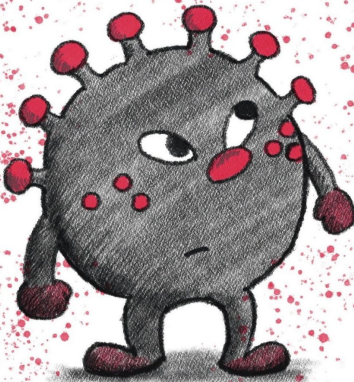




しんがた
新型コロナウイルスと生きる子どもたちへ

げんきなところと げんきなからだ

みやもと かれん きくざわ あつこ
作:宮本 佳蓮 絵:菊澤 篤子



 日本赤十字社 京都府支部
Japanese Red Cross Society



やあ みんな、はじめまして。
ぼくの名前は アンリー・デュナン。
スイス生まれのおじさんさ。
これから みんなに
きいてほしい話があるんだ。

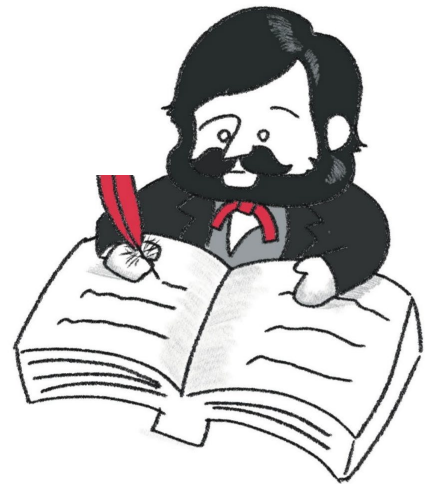
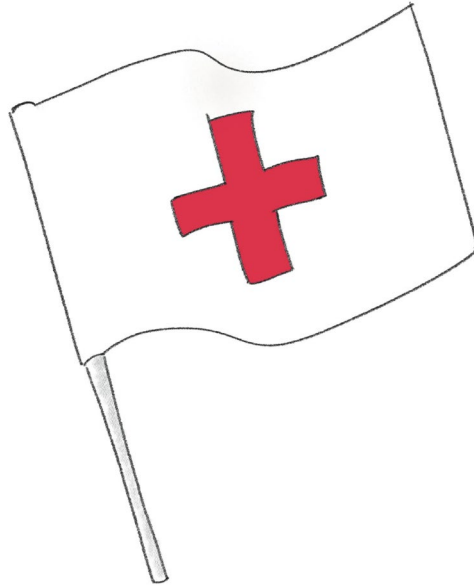
むかし、イタリアという国で
大きなせんそうがあったんだ。

たくさんの方がケガをしているのを見て、
ぼくは町の人といっしょに手あてをしたよ。

どこの国の人でも、子どもでもおとなでも、
みんなたすけあうべきだと思ったんだ。



そのあと、くるしんでいる人^{ひと}をたすけるために
「せきじゅうじ」というチ^っームを作ったんだ。
そして、せんそうのルールも^{かんが}考えたよ。



- ～おやくそく～
- ①けがをしたひとは
ぜんいんたすけます。
てきもみかたもたすけます。
 - ②かんけいのないひとは
こうげきしません。

『ピルフェー1の
思い出』

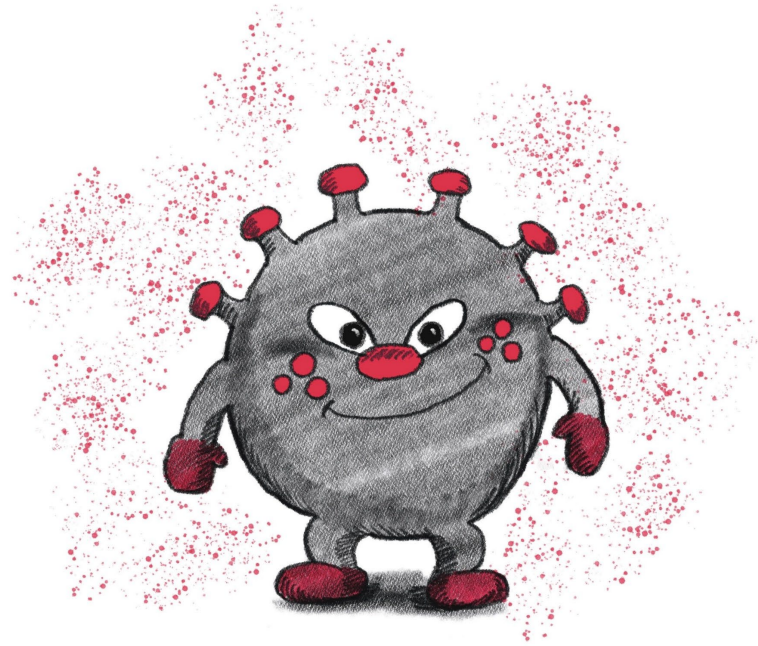
だけど、せんそうがない^{とき}時でも
きずつけられて かなしんでいる^{ひと}人が いるよ。

なかまはずれに ^いされたり、
いやなことを ^い言われたり。

これからする ^{はなし}お話は、
きみたちの^{ちか}近くで おきていたこと なんだ。

しんがたコロナウイルスって知^しってるかい？

かぜのなかまで、高^{たか}いねつがでたり
いきがくるしくなったりするびょうきだよ。

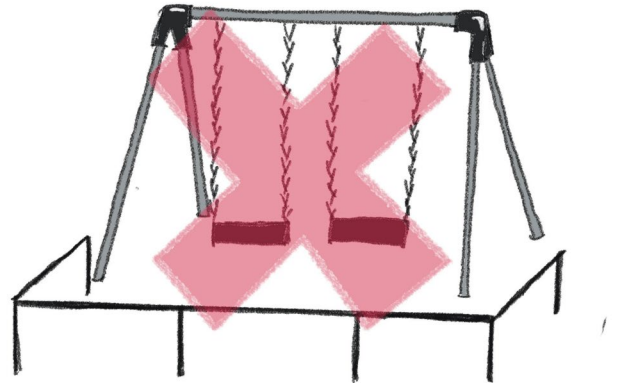
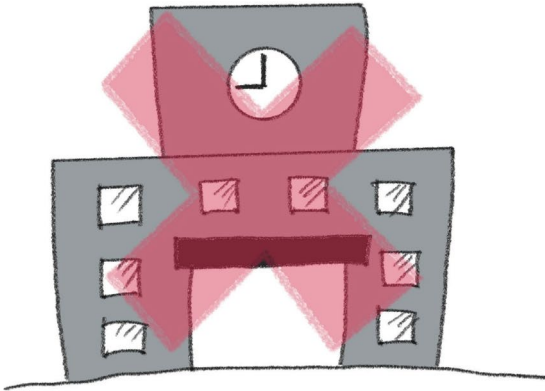


2019ねんから、せかいじゅうで
た^{ひと}くさんの人がこのびょうきになったんだ。

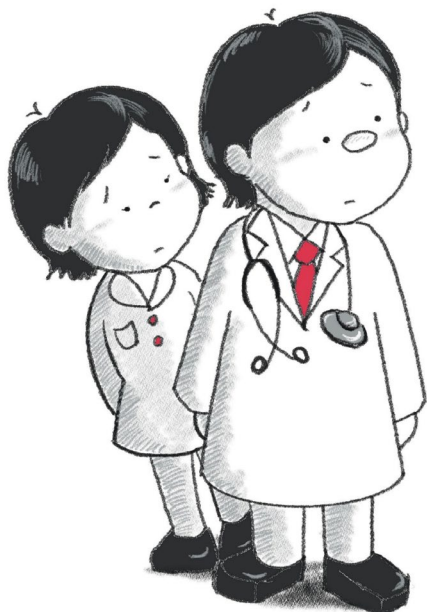
^{ひと}人から^{ひと}人にうつるびょうきだから
みんなおでかけしなくなっちゃった。

^{がっこう}学校も^{やす}お休み、^{こうえん}こうえんもあそべない。
とってもかなしいね。

だけど、もっとかなしいことがあったんだ。

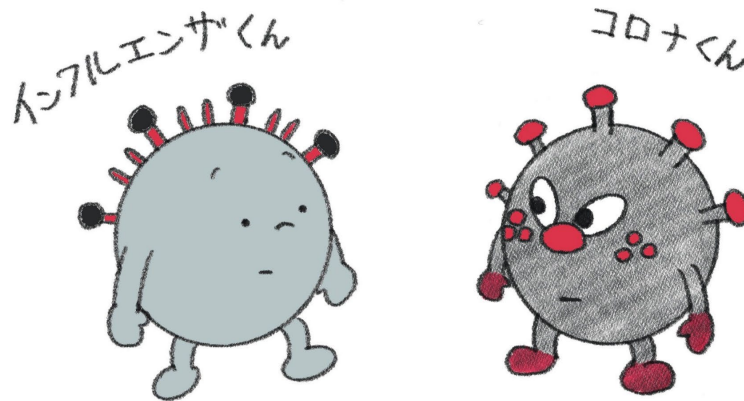


かんじゃさんや その家族が なかまはずれに されたり、
びょうきをなおすために がんばっていた
おいしゃさんや かんごしさんが
「びょうきが うつた」とうわさされること があったよ。
おうちに らくがきされたこと も あるんだ。



そんなことをしても、
びょうきは なくなるのにね。

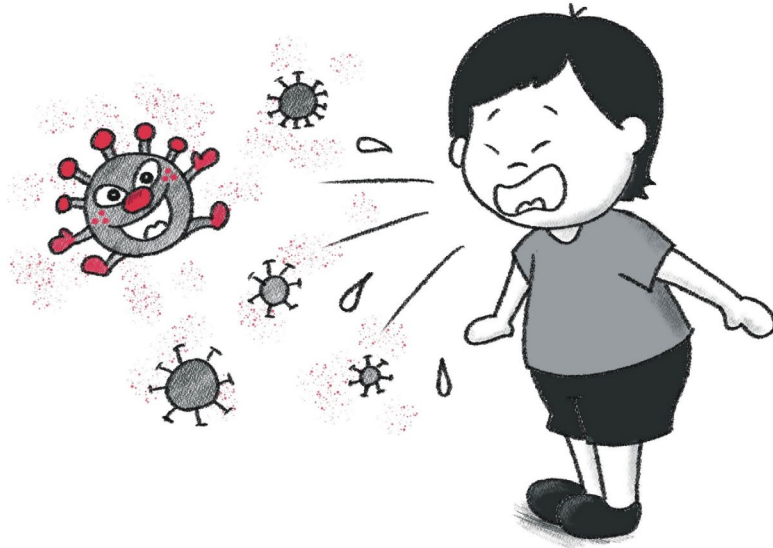
しんがたコロナウイルスのように
人^{ひと}から人^{ひと}へうつるびょうきのことを
『かんせんしょう』というよ。



あのインフルエンザも ^{おな}同じ
『かんせんしょう』のなかまなんだ。

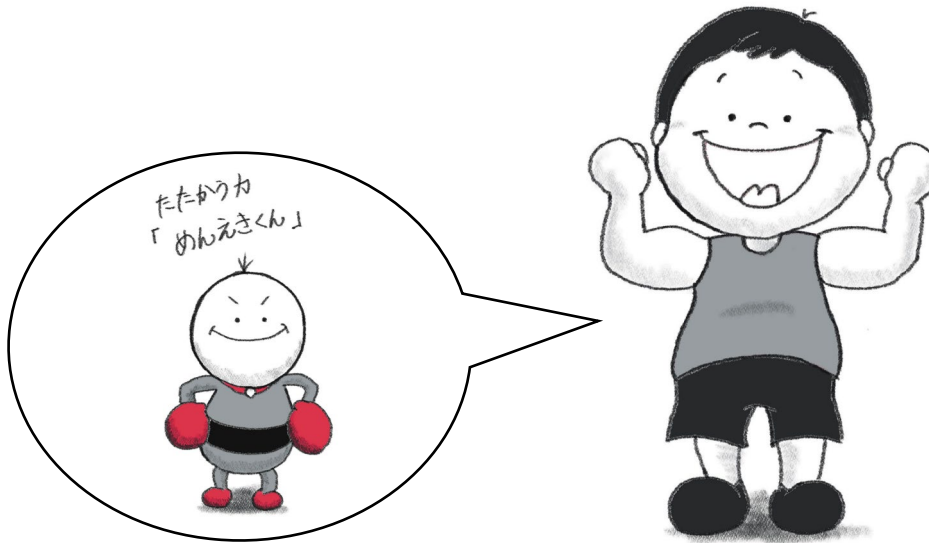
ウイルスや きんなどの ばいきんが
体の中に入れてきて、かんせんしょうになると、
のどやおなかがいたくなったり、
せきをしたり、ねつが出たりすることがあるよ。

ばいきんは とても小さくて 目には
みえないんだ。
人やものや どうぶつにくっついたり、
空気の中をとんだりして、広がっていくよ。



でも、だいじょうぶ。
ばいきんがからだ体のなか中に入はいってきても
きみたちの体は ばいきんとたたかう力ちからを
もっているんだ。

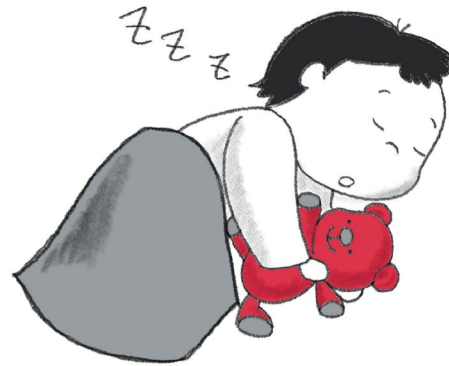
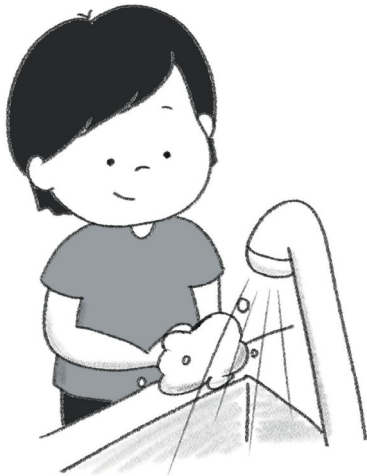
ううまれた日ひから今日きょうまで なんどもたたかって
どんどん強つよくなってきているよ。



そして、元げん気きな人ひとのほうが、
たたかう力ちからが強つよいといいわれているんだ。

だから、たたかいにかつためには
よく食たべて、よくねて、うんどうすることが
とても大切たいせつなんだ。

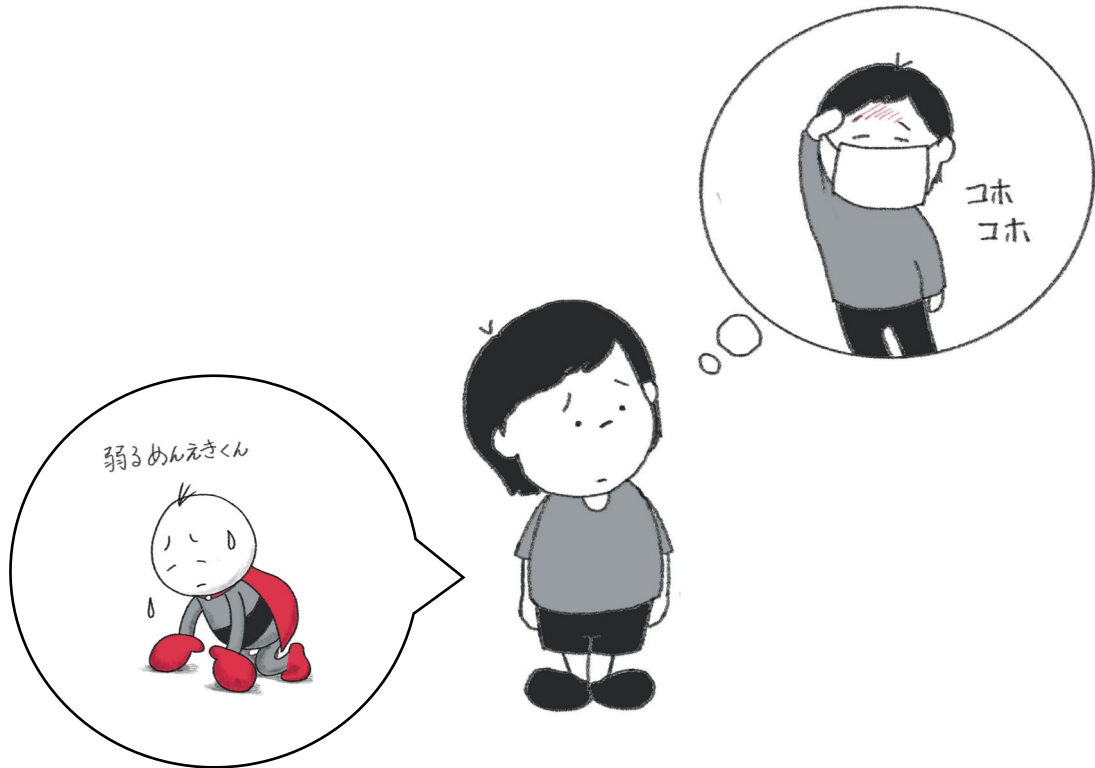
ほかにも、手^てあらいやうがいをしたり、
元^{げん}氣^きがないときは ゆっくりやすんだり、
おふろにつかって
体^{からだ}をあたためることも いいね。



でもこれって、あたりまえのこと？
いつもと同じせい^{おな}いかつ^{おな}を^{おな}することが、
心^{こころ}と体^{からだ}の元^{げん}氣^きのためには
大^{たい}切^{せつ}なんだ。

たくさんの方が びょうきになると、
つぎは 自分かも?と 考えてしまうよね。

しんぱいしたり、こわくなったり・・・



だけど、心が弱くなっている時は、
もっと びょうきになりやすくなっちゃうんだ。

考えないことも 大切だよ。

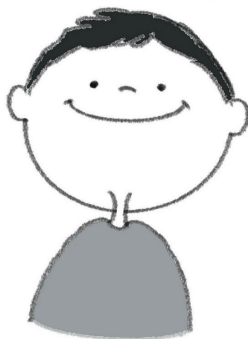
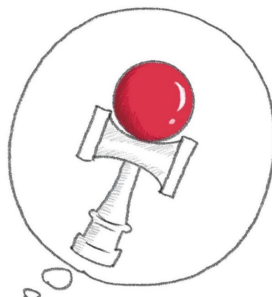
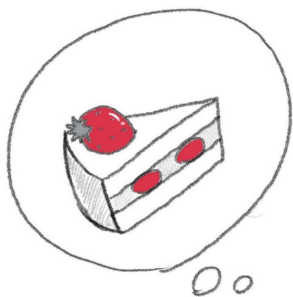
しんぱいごとがあるときや、
心こころがくるしいなって感じるときは、
わざとじゃないのに、お友だちを
きずつけてしまうことがあるんだ。

「あっち行って!」
「いっしょにあそばない!」
「だいきらい!」

かなしいね。
本当ほんとうはみんなであそびたいのにね。



そんな時は、すきなおやつを たべて、
すきなおもちやで あそんで、^{げん}きを出そう！



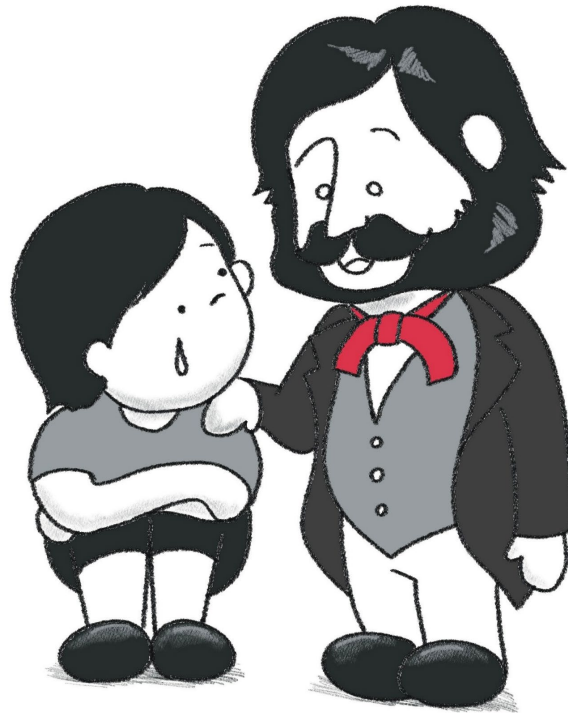
きみの すきな^た食べものは なにかな？
むちゅうになれる あそびは なにかな？
^{たの}楽しくなる ^{うた}歌は なにかな？
きもちがおちつく ばしょはどこかな？

^{げん}きのもとを さがしておこう！

たひとくさんの人が びょうきになったり
じしんや つなみで 家いえがなくなったり
大切たいせつな人ひとが いなくなったり。

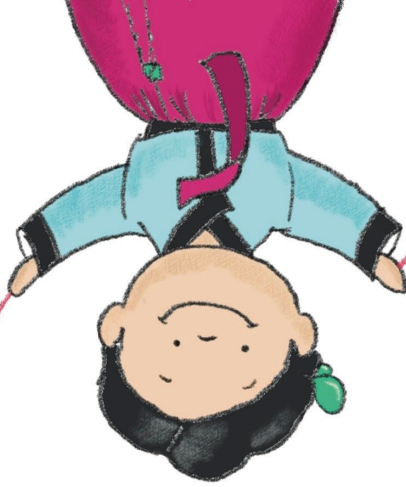
ふあんなこと、かなしいことは たくさんあるね。
だけど、こまった時ときこそ
みんなちからで 力をあわせて たたかうんだ。

みんな ともだち。みんな なかま。



どんなにくるしくても、どんなにこわくても
みんなといっしょなら だいじょうぶ。

だれかを わるものにして せめたって
だれかを なかまはずれにしたって
いやなことは なくなるらない。

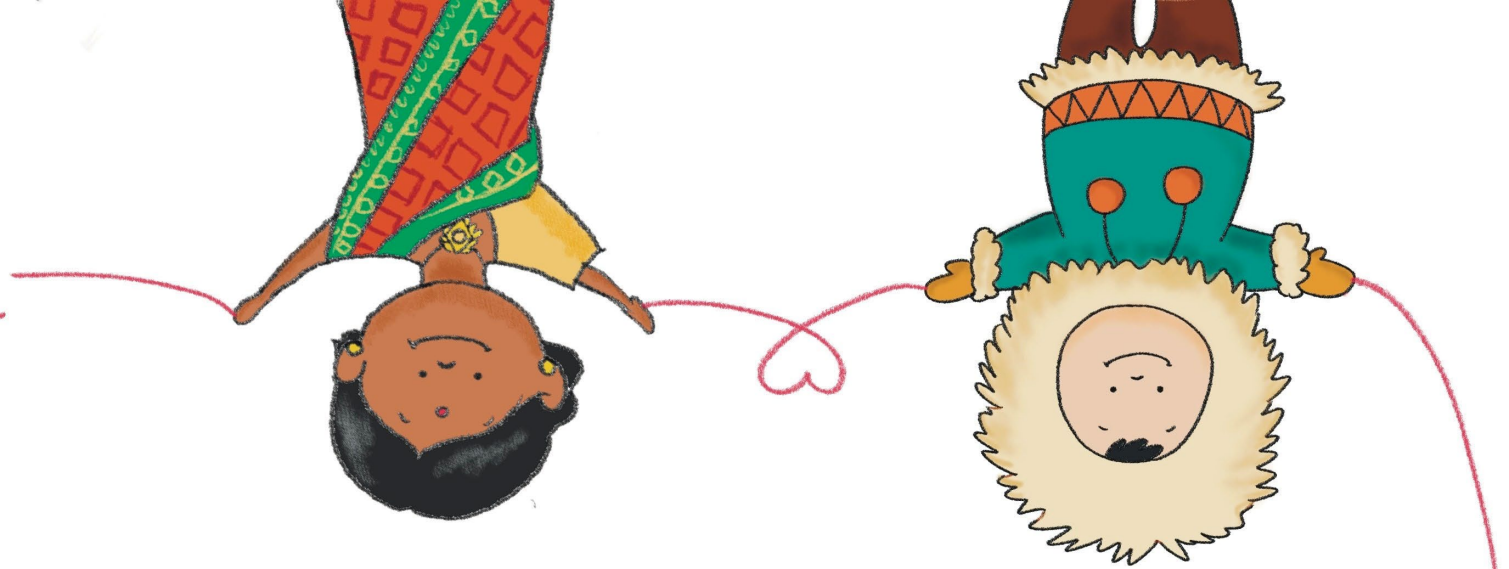


どこのくにの^{ひと}人でも、
こどもでも おとなでも
こまっている人は^{ひと}みんなて たすけあう。

こまったときは
たすけてもらって いいんだよ。

あいことばは
『みんなともだち、みんななかま』





げんきなところが あれば、
からだも げんきになるね。

こころ ポカポカ、にっこり えがお。



あとがき

先日、新型コロナウイルスについて、感染症法上の位置づけが引き下げられるというニュースがありました。これからは季節性インフルエンザと同じ『第5類』に移行し、新型コロナウイルスという名称も、コロナ2019などに変更するという案もあるそうです。

では、どうして今このような絵本を出すことになったのか？それは、同じ過ちを繰り返さないために、今こそ「学ぶ時」「備える時」だと考えたからです。

これまで、ペストやエイズなどの感染症が世界的大流行(パンデミック)になる度に、感染者らが差別・迫害・排除などをされてきた歴史があります。その対象となったのは、感染者だけに留まりませんでした。

感染症には、3つの顔があると言われています。医学的な感染症として『病気』があり、その未知の病に対する『不安』は2つ目の心理的感染症と言えます。そして、『不安』が広がった先の『差別』は社会的感染症であり、この『差別』を恐れて、適切な医療を受けられなかったり、症状を偽るなどして、更に『病気』が広がる。この3つの感染症は繋がっています。

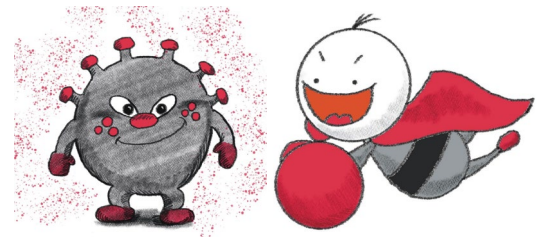
『病気』を防ぐためにはそのウイルス等にあった感染対策が必要ですが、どんな感染症でも『不安』『差別』に繋がらないための方法は同じです。

- 正しく知り、正しく恐れる。不安を煽らない。
- 不安な時は攻撃的になりやすいことを自覚し、言動・行動を意識する。
- 「いつも通り」の生活を送るために、心を安定させる方法を身につける。

これらの『感染症レジリエンス』(感染症に対する適応力)を高めるための方法が、子どもたちにも伝えられればと思い、この絵本作りに至りました。

子どもたちが大きくなった時、また新しい感染症が流行しているかもしれません。その時、『病気』を正しく知り、『不安』『差別』への連鎖を断ち切る力を持った人が多くいれば、また同じ過ちを繰り返さずに済むのではないのでしょうか。ひとり一人の思いと行動で、感染症を理由に排除される人が無くなる社会を願っています。

令和5年(2023年)2月
京都府青年赤十字奉仕団
赤十字京都ユース 宮本佳蓮



発行元 日本赤十字社京都府支部Limitlessチーム事務局
京都府京都市東山区三十三間堂廻り町644 Tel (075) 541-9326

人間を救うのは、人間だ。